

# PEG-Jカテーテル

## 管理マニュアル



### 目次

カテーテルの交換記録 ……………	1	PEG-Jカテーテルの構造 ……………	5
栄養剤の記録 ……………	2	栄養剤の注入方法 ……………	7
PEG-Jとは ……………	3	胃内の減圧方法 ……………	8
PEG-Jにするメリット ……………	4	留置中の注意事項 ……………	9
PEG-Jで気を付けること ……………	4	メモ ……………	10

監修：水野 英彰 (目白第二病院 外科・消化器科)

カテーテルの交換について記録しましょう。

## カテーテルの交換記録

記入日： 年 月 日			
カテーテル留置日	年 月 日	次回カテーテル交換日	年 月 日
製品名		留置カテーテルのサイズ	Fr
留置した 医療機関と医師	病院 先生 (TEL:		科 )

記入日： 年 月 日			
カテーテル留置日	年 月 日	次回カテーテル交換日	年 月 日
製品名		留置カテーテルのサイズ	Fr
留置した 医療機関と医師	病院 先生 (TEL:		科 )

記入日： 年 月 日			
カテーテル留置日	年 月 日	次回カテーテル交換日	年 月 日
製品名		留置カテーテルのサイズ	Fr
留置した 医療機関と医師	病院 先生 (TEL:		科 )

記入日： 年 月 日			
カテーテル留置日	年 月 日	次回カテーテル交換日	年 月 日
製品名		留置カテーテルのサイズ	Fr
留置した 医療機関と医師	病院 先生 (TEL:		科 )

記入日： 年 月 日			
カテーテル留置日	年 月 日	次回カテーテル交換日	年 月 日
製品名		留置カテーテルのサイズ	Fr
留置した 医療機関と医師	病院 先生 (TEL:		科 )

栄養剤について記録しましょう。

## 栄養剤の記録

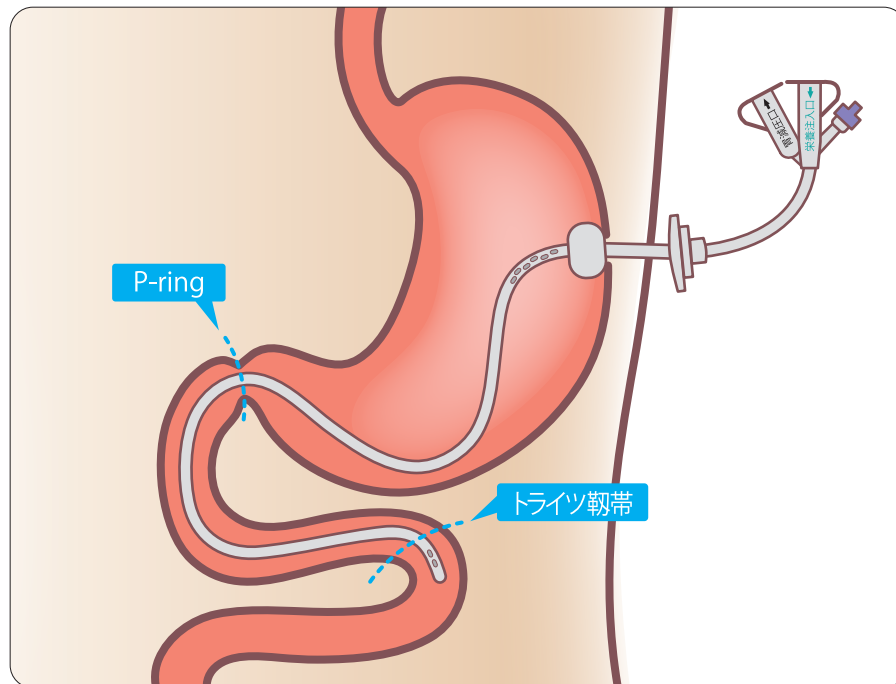
記入日： 年 月 日	
栄養剤の名前	
栄養剤のメーカー	
栄養剤の量	
水分の量	
注入の時間	時間 ( 滴 / 分 )

記入日： 年 月 日	
栄養剤の名前	
栄養剤のメーカー	
栄養剤の量	
水分の量	
注入の時間	時間 ( 滴 / 分 )

記入日： 年 月 日	
栄養剤の名前	
栄養剤のメーカー	
栄養剤の量	
水分の量	
注入の時間	時間 ( 滴 / 分 )

## ■ PEG-Jとは？

胃瘻の瘻孔から十二指腸や空腸へカテーテルを留置する腸瘻化のことです。栄養剤を投与したり、胃に貯留するガスなどを減圧するために使用します。



## PEG-Jにするメリット

- カテーテルの先端を十二指腸や空腸へ留置するので、嘔吐や胃食道逆流を防ぐのに有効です。胃瘻からの漏れに有効なこともあります。

## PEG-Jで気をつけること

- 空腸へ直接栄養剤を投与するので、下痢や<sup>\*</sup>ダンピング症候群の注意が必要です。栄養剤は経腸栄養ポンプを使用し、**時間をかけて投与することが望ましい**とされています。栄養剤投与時に注意深い観察が必要です。

<sup>\*</sup>ダンピング症候群とは… 腸に直接栄養剤が投与されるために起こり、主な症状に冷や汗や動悸、めまいなどがあります。

- 胃瘻カテーテルと比べ内腔が細く長いので、チューブが閉塞しないように栄養剤等の投与前後は必ず微温湯で<sup>\*</sup>フラッシングを行ってください。
- 24時間持続投与の場合
  - ・6時間ごとを目安に<sup>\*</sup>フラッシングを行ってください。
  - ・栄養剤や器具の細菌汚染を防ぐため、8時間以内に交換してください。(ただし、24時間続けて投与しても細菌汚染の危険がない製剤もあります。主治医の指示に従ってください。)

<sup>\*</sup>フラッシングとは… 適切な量の微温湯を勢いよく注入し、カテーテルの内腔を洗い流す行為です。

# ■ PEG-Jカテーテルの構造

## 胃減圧口

胃内にある胃減圧孔に続きます。  
キャップを開放して減圧を行って  
ください

## 栄養注入口

ここから栄養剤を投与します

## バルブ

胃内のバルーンを  
拡張/収縮させます

先導子タイプ



※先端の形状は2種類あります

先端造影タイプ



## 固定板

カテーテルが蠕動運動等によって  
引きずり込まれないようにする体外  
ストッパーです

## バルーン

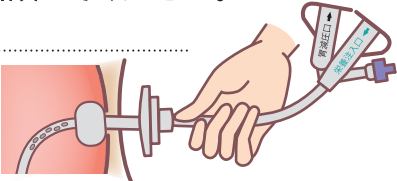

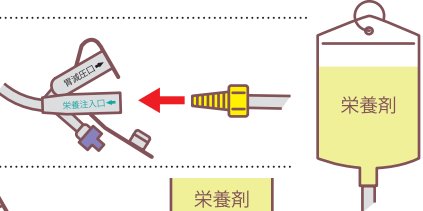
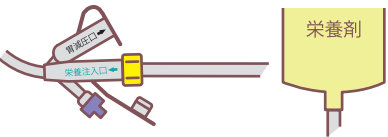
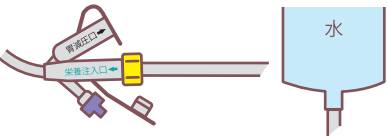


胃の中でストッパーの  
役割をします

## 胃減圧孔

胃内に溜まったガスを減圧  
するための側孔です


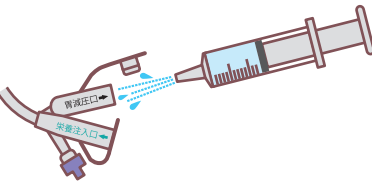

## ■ 栄養剤の注入方法

栄養剤を投与するときは、**速度に注意しましょう**。異常が確認された場合はすぐに主治医に相談してください。

- 1 栄養剤の注入前にカテーテルを軽く引っ張り、カテーテルに異常がないか確認します。
- 2 栄養注入口のキャップを外し、栄養注入口からフラッシング(10mL程度)してください。
- 3 カテーテルの栄養注入口に、栄養バッグ等を接続します。
- 4 栄養剤の投与を開始します。
- 5 必要があれば水分を追加投与します。
- 6 栄養剤の投与後は必ずフラッシング(10mL程度)を行い、カテーテルの中をきれいにします。
- 7 栄養注入口のキャップを閉めます。

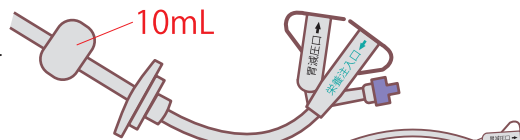
## ■ 胃内の減圧方法

必要があれば胃内の減圧を行います。

- 1 胃減圧口のキャップを外します。
- 2 胃内容物が排出する場合は、容器等に排出させた後、胃減圧口からフラッシング(5mL程度)をして、胃減圧内腔を洗浄してください。
- 3 胃減圧口のキャップを閉めます。

# ■ 留置中の注意事項

●バルーン容量は10mLです。



●カテーテルの使用期限は1か月です。1か月で交換

毎月 new!

●1週間に1回、バルーン内の水（滅菌蒸留水）をすべて抜き取り、新しい水に変えてください。

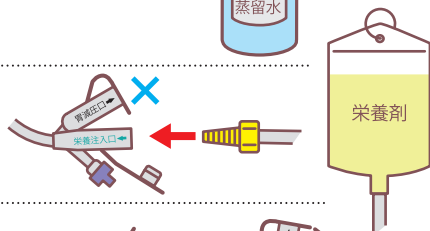


●バルーンの拡張には滅菌蒸留水以外は使用しないでください。



●栄養剤は“栄養注入口”から投与してください。

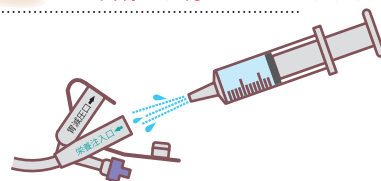
“胃減圧口”から投与しないでください。



●固定板は皮膚から約1~1.5cmの余裕がある位置にしてください。

皮膚から約1~1.5cm あげる

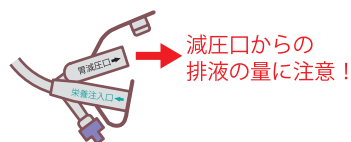
●胃瘻カテーテルと比べ内腔が細く長いので、チューブが閉塞しないように栄養剤等の投与前後は必ず微温湯でフラッシング（10mL程度）を行ってください。



●チューブを回転させないようにしましょう。（胃減圧孔のルーメン [通り穴] がキンクしてしまう可能性があります。）



●減圧口からの排液の量が著しく増量しているときは、何らかのトラブルが考えられます。主治医に相談してください。



●事故抜去した際の対応について、事前に主治医とご相談ください。

●皮膚に異常が認められる場合は、主治医にご相談ください。

## MEMO

病院・医院名



クリエートメディック株式会社

<本社> 横浜市都筑区茅ヶ崎南 2-5-25

<ホームページ> <http://www.createmedic.co.jp>

札幌 TEL.011(727) 5611 FAX.011(727) 8990  
盛岡 TEL.019(606) 1020 FAX.019(606) 1022  
仙台 TEL.022(234) 2541 FAX.022(234) 2530  
さいたま TEL.048(640) 6161 FAX.048(640) 6162  
東京 TEL.03(3815) 7861 FAX.03(3815) 7943  
千葉 TEL.04(7141) 2945 FAX.04(7141) 2946  
横浜 TEL.045(943) 2617 FAX.045(943) 2618  
名古屋 TEL.052(238) 5670 FAX.052(241) 5033

金沢 TEL.076(260) 1085 FAX.076(260) 1086  
大阪 TEL.06(6944) 0401 FAX.06(6944) 0400  
神戸 TEL.078(341) 0488 FAX.078(341) 0487  
広島 TEL.082(261) 5401 FAX.082(261) 5402  
福岡 TEL.092(474) 9911 FAX.092(474) 9912  
鹿児島 TEL.099(250) 6391 FAX.099(250) 6392  
事業推進室 TEL.045(943) 3929 FAX.045(943) 9084